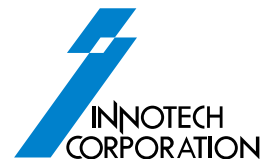


INNTECH CORPORATION

BUSINESS REPORT

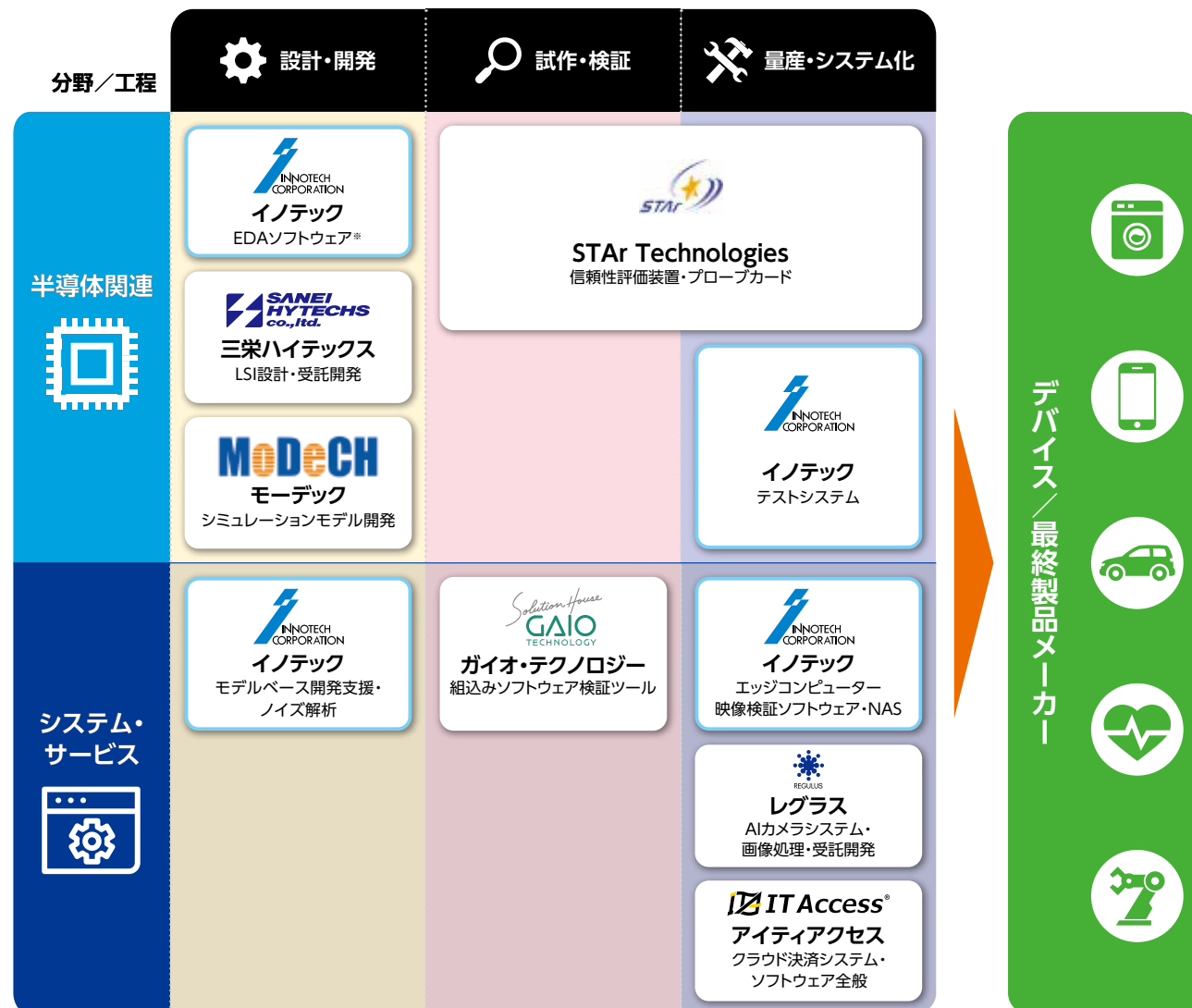
2021年度 年次報告書 2021.4.1-2022.3.31



証券コード:9880

イノテックグループのビジネスとは？

ハードウェア、ソフトウェア、コンサルティングサービスを提供する
総合プロバイダーとして、お客様の技術課題の解決に幅広く貢献します。



※ 半導体設計用ソフトウェア

株主の皆様へ

環境変化に対応し、
中長期の成長への基盤を固めます。

代表取締役社長
大塚 信行



当期の経営環境や業績について

2021年度(2022年3月期)の日本経済は、欧米や中国などの経済活動回復に伴う輸出や設備投資の改善、新型コロナウイルス感染症対策の緩和による消費の回復など、景気に持ち直しの動きがみられたものの、半導体の世界的な需給ひっ迫やサプライチェーンの混乱による部材供給難、ウクライナ情勢や資源価格の高騰が世界経済に与える影響など、依然として予断を許さない状況が続いています。

こうしたなか、イノテックグループの当期の業績は、メモリー向けテストの需要が旺盛だったことに加え、EDAソフトウェア、受託サービスが概ね堅調に推移しました。

これらの結果、売上高372億38百万円(前期比14.5%増)、営業利益25億85百万円(同32.3%増)、経常利益29億84百万円(同21.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益21億94百万円(同43.0%増)となりました。

2022年度の業績見込みについて

2022年度(2023年3月期)は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、社会経済活動の正常化が一定程度見込まれるものの、急速な円安の進行の影響が懸念されるほか、半導体の世界的な需給ひっ迫や部材調達難についても、引き続き予断を許さない状況が予想されます。

当社グループにおいては、前期に多額の為替差益等が計上された反動により、経常利益以下については減益を見込みますが、引き続き部材調達難への対応を進め、国内向けのメモリーテスト等の堅調な需要に応えるほか、今後の需要回復が見込まれる市場で追加案件や新規顧客の獲得を図り、収益の拡大を目指します。

株主の皆様には、引き続き変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

▶ イノテックが目指すもの

- ▶ エレクトロニクス・ビジネスを通じて、人々の生活を豊かで快適なものにし、「未来社会に貢献」する
- ▶ 創造力を駆使、携わるエレクトロニクス業界の技術の進歩に寄与し、「不可欠な存在」になる
- ▶ 我々の真の事業は「問題を解決すること」であり、顧客に満足いただく労苦を惜しまない
- ▶ 先端技術に挑戦し続ける「パイオニア」になる
- ▶ 創造力を発揮できる会社の仕組みづくりに心血を注ぐ、「誇りの持てる」会社を実現する

▶ 配当金のご案内

期末配当につきましては、今後の事業展開などを総合的に勘案し、2022年6月24日開催の第36回定時株主総会で決議いたしました。

1.配当金.....1株につき**35円**
(中間配当金30円、期末配当金と合わせて年間配当金65円)

2.効力発生日(支払開始日).....**2022年6月27日**



Q 中期経営計画(2019～2023年度) 3年目における成果・課題について

A 期初予想を大きく上回る業績で着地。「顧客ベースの拡大」に向けて、オンラインでの営業・マーケティング活動を推進しています。

2021年度は、テストソリューション事業、半導体設計関連事業が堅調に推移し、売上・利益ともに、期初予想を大きく上回ることができました。

一方で、事業環境は、中期経営計画策定時には想定していなかった変化が起こっており、決して楽観視はできないと考えています。新型コロナウイルス感染症の拡大や半導体の世界的な需給ひっ迫の影響により、部材調達が困難な状況が続いており、2022年度以降の売上につながる営業活動やマーケティング活動にも制約が出てきています。

このような中、中期経営計画における戦略の1つ「顧客ベースの拡大」に向けた取り組みとして、オンラインセミナーの開催など、効率的なマーケティング活動や営業活動を推進し、成果が現れています。新型コロナウイルス感染症が収束に向かい行動制限がなくなれば、リアルとオンラインでのハイブリッドな営業活動も可能になり、業務の効率化と収益性の向上につながると考えています。

Q 今後の事業成長に向けて注力するポイントについて

A グループ会社間や事業部門間の連携を強化し、セグメント運営のさらなる深化を図ります。

2021年度のスタートにあたり、事業セグメントを、テストソリューション事業、半導体設計関連事業、システム・サービ

ス事業の3つに再編しました。このセグメント運営のさらなる深化に向けて、セグメント内におけるグループ会社間の連携を強化し、製品品質／サービスの向上、製品開発スピードの加速、購買の共通化による生産性の向上など、シナジー効果を期待しています。

その成果は、既に現われ始めています。イノテックのEDAソフトウェア部門が代理店として、グループ会社であるモーデックの製品・サービスの販売活動を展開し、今期売上を大きく伸ばすことができました。また、毎月開催される全体会議では、各事業部門から連携を意識した取り組みが発表されています。

私からは社内の方針説明会やコミュニケーションミーティングなどの場で、社員に「挑戦を恐れず、積極的に新たな取り組みを試みてほしい」と話しています。今後はセグメント内にとどまらず、セグメント間でも協働・協創の動きが広がるように取り組んでいきます。

Q ESGに関する取り組みについて

A 持続可能な社会の実現、企業価値の向上に向けて、全社で推進していきます。

当社は、常勤取締役、各事業部門長、そしてグループ会社の責任者をメンバーとするESG^{*1}／SDGs^{*2}推進会議を毎月開催しています。2021年度においては、ダイバーシティ&インクルージョンにおける女性活躍推進を最優先に取り組むべきことと考え、「国内グループ会社における女性管

理職比率を2025年度に5%、2030年度に10%」とする目標を定めました。また、気候変動に伴うリスク・機会の分析についても議論を進めています。当社の事業領域である半導体・エレクトロニクス技術は、これからの環境負荷低減におけるキーテクノロジーであるため、持続可能な社会の実現に向けて全社で取り組んでいきます。

※1 企業の課題解決と長期的成長に必要とされる3つの観点「Environment(環境)」、「Social(社会)」、「Governance(ガバナンス)」の頭文字を組み合わせた造語

※2 Sustainable Development Goals／持続可能な開発目標

Q 中期経営計画の目標達成、今後の見通しについて

A 成長市場において、変化をいち早く捉え、事業の強化を図ります。

2021年度のROEは10.4%となり、中期経営計画の目標値である8%以上を達成しました。ただこの数値は、営業外収益に起因するところもありますので、最終年度(2023年度)に向けて、セグメント運営をさらに深化させて収益を伸ばすべく、事業を強化していく必要があると考えています。

当社の事業は、高機能スマートフォン、電気自動車、人工知能、データセンター、メタバースなど、成長が見込まれる市場と密接に関わっています。台湾の先端半導体受託メーカーが日本に工場を建設するという計画が発表されたことも、当社にとって追い風です。市場の変化をいち早く捉え、スピード感をもってマーケットの成長とともに歩んでまいります。

イノテックグループのマテリアリティ(重要課題)を特定しました

イノテックは、当社グループのサステナビリティに関するマテリアリティを特定しました。今後それぞれの重点テーマについて、具体的な施策の実行、評価、改善を継続的に行います。経営理念やサステナビリティ基本方針をベースとし、マテリアリティに積極的に取り組むことにより、当社グループのサステナビリティ活動のさらなる充実を図ります。

マテリアリティ	重点テーマ	SDGsへの取り組み
ヒューマンキャピタル マネジメント	●人材確保・育成、ナレッジマネジメント ●ダイバーシティ&インクルージョン ●モチベーションの向上 ●労働安全衛生、働き方改革・業務効率化	    
サプライチェーン マネジメント	●部材調達と製品供給の安定化 ●持続可能エネルギーへのアクセス確保 ●サプライヤーCSR行動基準	   
エレクトロニクス技術を通じた社会課題の解決	●環境負荷低減製品での環境貢献 ●顧客企業の生産性向上 ●新規技術・分野への取り組み ●品質マネジメントによる生産性の改善 ●ディーセントワークの実現	     
社会との共生と 持続可能な未来への貢献	●地球環境・気候変動への配慮、貢献 ●イノベーション・価値創造の促進 ●取引先とのパートナーシップ	   
経営基盤の整備	●資本効率の向上 ●サクセッションプランニング ●情報セキュリティ、コンプライアンス	 

TOPICS

OSARO 社と共同でロート製薬社の次世代スマート工場におけるAIピッキングロボット導入のためのシステム構築を担当

イノテックはOSARO 社と共同で、ロート製薬社が2022年秋に三重県で稼働予定の次世代スマート工場でのAIを活用したピッキングシステムの構築を進めており、製品容器のピッキング作業の自動化につなげることを目指しています。

OSARO 社はロボット作業を効率化するAIソフトウェアを提供し、当社はAIソフトウェア導入のための実証実験からインテグレーションまでをサポートします。

【OSARO 社】

OSARO 社はサンフランシスコを拠点とするAI企業であり、産業用ロボット向けの統合認識／制御ソフトウェアを提供しています。深層学習を使い従来は難しかったピースピッキングの自動化を可能にしています。



イノテックYouTubeチャンネル

OSARO 社のAIピッキングロボットの動画は、イノテックYouTubeチャンネルで視聴できます。

URL:

<https://www.youtube.com/channel/UCu1wNhjQlg2ORGOQFaqwQdg>





組み込みソフトウェアとモデルベース開発で 自動車の未来を見据える



ガイオ・テクノロジーの独自技術による検証ツールは、車載機器の開発に使用され、国内自動車業界でデファクトスタンダードとなっています。電子化が加速する自動車の開発を支えるべく、当社は、これまで培った知見／ネットワークを活かし、製品／サービスの領域を拡大するとともに、他分野へ展開していきます。

ガイオ・テクノロジー
株式会社
代表取締役社長
中村 吉和



Q ガイオ・テクノロジーはどのような会社?



「ツール事業」と「エンジニアリングサービス事業」を両輪とした、
総合サプライヤーです。

ガイオ・テクノロジーは1980年の設立ですが、これを第一次創業としています。その後1992年に、FPGA^{*}などのハードウェアを扱う会社と、組み込みソフトウェアを扱う会社が合併し、社名をガイオ・テクノロジーに変更したのが第二次創業です。そして、イノテックグループの一員となった2014年を、第三次創業と位置付けています。

現在、当社は「ツール事業」と「エンジニアリングサービス事業」を展開し、自動車メーカーや自動車部品メーカーなどに対し、組み込みソフトウェアの検証ツールとエンジニアリングサービスを提供しています。

「ツール事業」では、自動車に組み込まれるプログラムの仕様書を作成・解析するツール「CasePlayer2」、部品実装後のテストを自動化するツール「カバレッジマスターwinAMS」を提供しています。これらの車載向け組み込みソフ

トウェア検証ツールは、国内自動車業界でデファクトスタンダードとなっています。また、自動車の先行開発／性能評価を実機ではなくソフトウェア上のシミュレーションで行うことで、両者を同時並行的に進めることができるのですが、これをモデルベース開発といいます。当社ではモデルベース開発に必要な解析／検証ツールや、セーフティー／セキュリティ設計分析ツールを提供しています。

「エンジニアリングサービス事業」では、ツール事業を通じて培った知見やネットワークを活かし、モデルベース開発の導入支援や、ソフトウェア品質向上に向けた支援などのサービスにより、お客様の開発を支えています。

※ 「Field-Programmable Gate Array」の略。製造後に購入者や設計者が構成を設定できる集積回路。

ツール事業

- 単体／結合テストツール
- モデルベース系解析／検証ツール
- タイミング検証ツール
- セーフティー／セキュリティ設計分析ツール

主にサプライヤー

エンジニアリングサービス事業

- ソフトウェア品質向上サービス
 - ・テスト請負サービス
 - ・品質コンサルティングサービス
- モデルベース開発支援サービス
 - ・リバースモデリングサービス
 - ・MBDプロセス構築サービス

主に自動車メーカー

Q 車載組み込みソフトウェアやモデルベース開発に強みがあるのはなぜ?

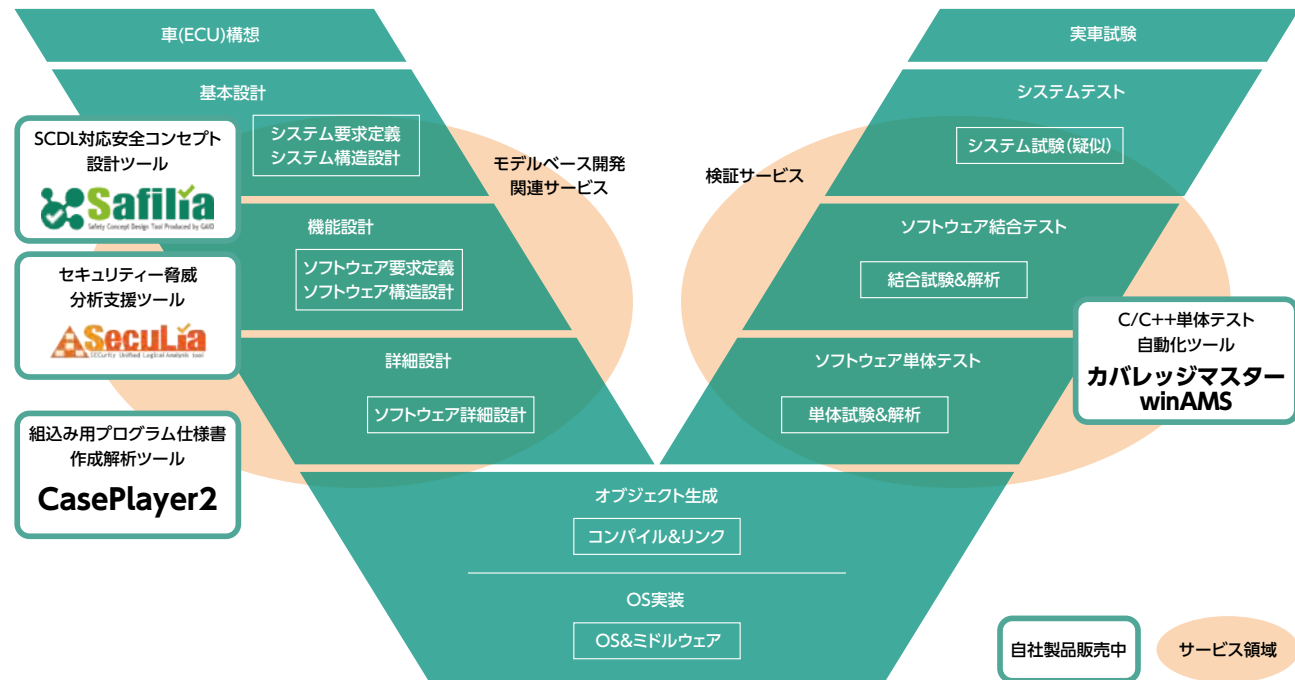
A マイコンのシミュレーターをサービスの起源としており、品質を求める自動車メーカーに採用いただいています。

「カバレッジマスターwinAMS」は、マイコンシミュレーターを活用したテストツールです。もともと当社が、半導体のマイコン^{*1}向けにコンパイラー^{*2}というソフトウェアを手掛けていたことから、その技術を活かし、マイコンシミュレーターを開発するようになりました。そして当社は、家

電の開発手法として既に普及していたモデルベース開発が自動車分野でも普及すると考え、「モデルベース」での開発・検証にフィールドを広げました。

車載ソフトウェア開発では、V字モデルという考え方があります。図の左側が設計プロセス、右側が検証プロセス

車載ソフトウェア開発のV字モデルと主要製品



となっています。左の設計側で下におりていくと、全体構想から詳細設計へと向かい、右の検証側に移ると、一番上の全体システムの最終形に向かって検証していくという流れになります。

複雑なシステムを作り上げるには、最下層の最小単位から検証していかないと、最終段階のシステムで問題が発生したとき、原因を究明するのが難しくなります。原因を明確にするためには、最小単位ごとに検証する「単体テストツール」が必要なのです。

この「単体テストツール」において、「カバレッジマスターwinAMS」は国内の自動車メーカーから高い評価を得ています。

モデルベース開発は、左側の設計プロセスで行われます。実機を使わずに検証するため、開発期間の短縮、コスト削減を図ることができます。車をモデルチェンジする際は、基本となるモデルをもとに、例えばヨーロッパ向けにエンジン出力を変えろといった変更箇所だけを検証すればよく、派生モデルの開発において大きなメリットとなります。当社は、長年のサポート業務を通して得た知見を提供し続けています。

※1 マイクロコントローラーの略。1つのICチップにコンピューターが使う基本機能を搭載した電子部品。
 ※2 プログラミング言語で書かれたプログラムを、コンピューターが解析・実行できる形式に変換するソフトウェア。

Q 今後のガイオ・テクノロジーの展望は?

A これまでに培った知見やノウハウを活かし、セーフティー／セキュリティ分野、自動車以外の分野への展開を図ります。

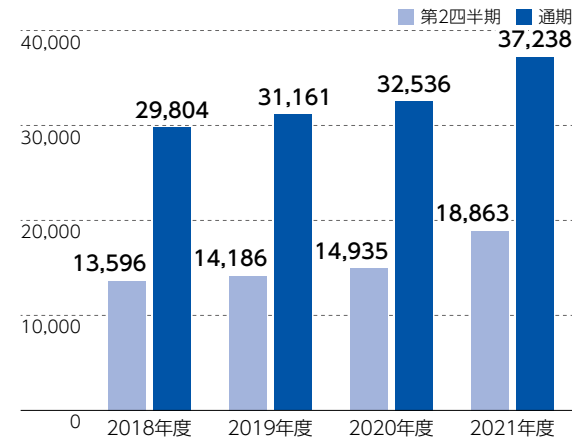
自動車の電子化により検証対象のソフトウェアが増えていることは、当社にとって追い風となります。一方で、自動運転に関わるソフトウェアは、100年に一度の変革期といわれるように、エンジン制御のソフトウェアなどとは作り方が異なり、競合が増える側面もあります。このような中、当社は、V字モデルの左側にある設計領域での展開を強化していきたいと考えています。

当社は、業界でまだ標準となるツールがない構想設計領域のセーフティー／セキュリティ分野で、安全コンセ

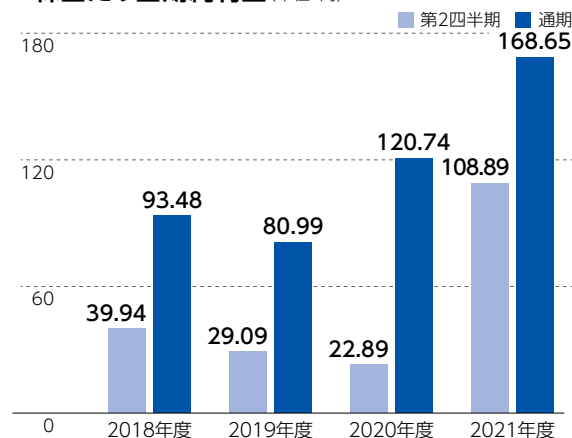
プト設計支援ツール「Safilia」、セキュリティ脅威分析支援ツール「Seculia」を中心に、製品／サービスを拡充していきます。また自動車以外に将来性のある市場として、人命にかかわるような機器の制御ソフトウェアなど、高い品質が求められる分野の動向を注視しています。その1つにロボットの分野があります。ロボットは、自動車とは異なるOSが使われ、まだ標準化も進んでいない状況ですが、着実に取り組みを進めていきます。

売上高 **372**億円 (前期比14.5%増)

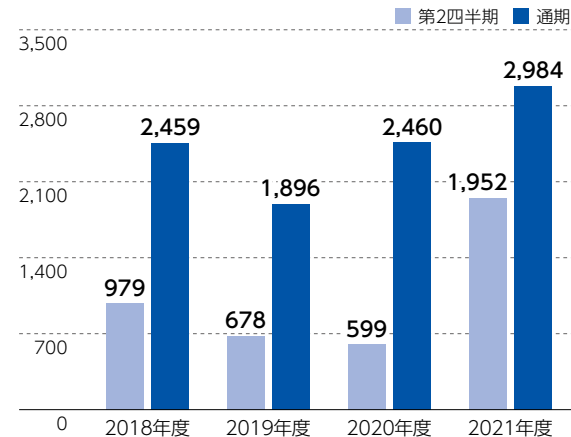
売上高 (単位:百万円)



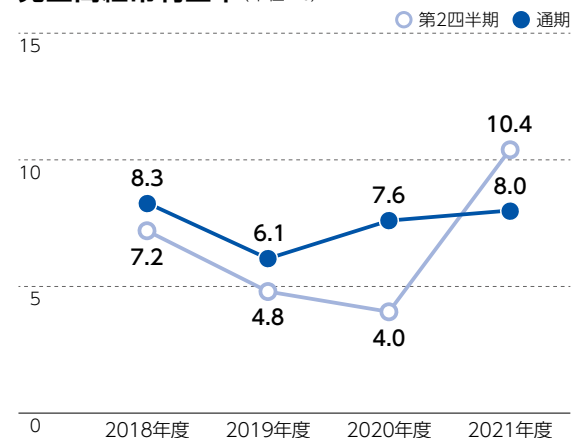
1株当たり当期純利益 (単位:円)

経常利益 **29**億円 (前期比21.3%増)

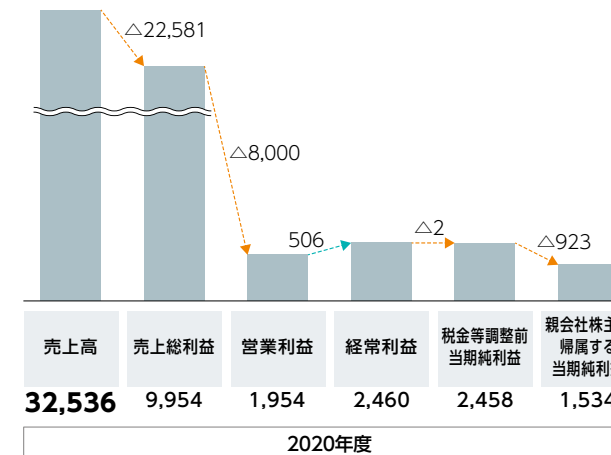
経常利益 (単位:百万円)



売上高経常利益率 (単位:%)

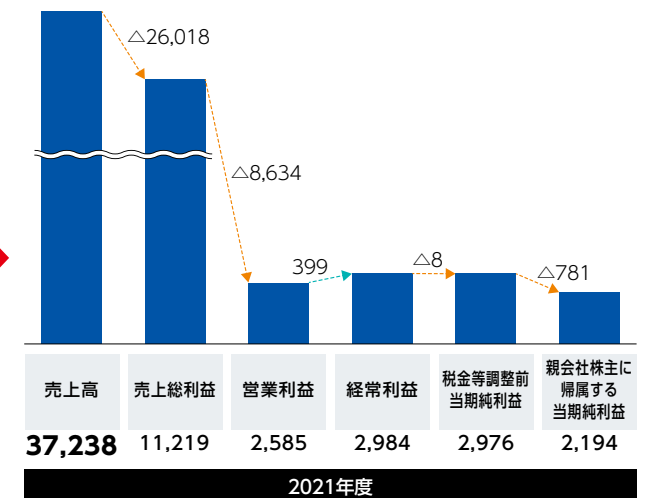


◆連結損益計算書 (単位:百万円)



(単位:百万円)

科目	前期 2020年4月1日～ 2021年3月31日	当期 2021年4月1日～ 2022年3月31日
売上高	32,536	37,238
売上原価	22,581	26,018
売上総利益	9,954	11,219
販売費及び一般管理費	8,000	8,634
営業利益	1,954	2,585
営業外収益	902	908
営業外費用	396	509
経常利益	2,460	2,984
特別利益	7	72
特別損失	10	81
税金等調整前当期純利益	2,458	2,976
当期純利益	1,630	2,283
非支配株主に帰属する当期純利益	95	88
親会社株主に帰属する当期純利益	1,534	2,194



①連結損益計算書のポイント

連結業績は、メモリー向けテストターの需要が旺盛だったことや半導体設計関連向けのビジネスが概ね堅調に推移した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は21億94百万円となりました。主な事業の概況は、次のとおりです。

- テスター事業は、国内需要が堅調に推移したことに加え、中国向け製品の販売が寄与したことにより、前期実績を大幅に上回り過去最高の売上高を計上。
- 三栄ハイテックスは、海外事業が前期実績に及ばなかったことや、退職給付債務の計算方法を簡便法から原則法に変更したことに伴う一時費用を計上したものの、国内の主力顧客の需要回復により稼働率が上昇し、概ね堅調に推移。
- アイティアアクセスは、新型コロナウイルス感染症の影響による決済端末需要の大幅な減少をサービス収入の伸長で補ったものの、前期実績には及ばず減収。

連結財務諸表(要旨)

◆連結貸借対照表

(2022年3月31日現在)



①総資産のポイント

当期末の総資産は、405億41百万円となり、前期末に比べ28億61百万円増加いたしました。これは、現金及び預金や原材料、商品及び製品が増加したことなどによるものです。

①負債のポイント

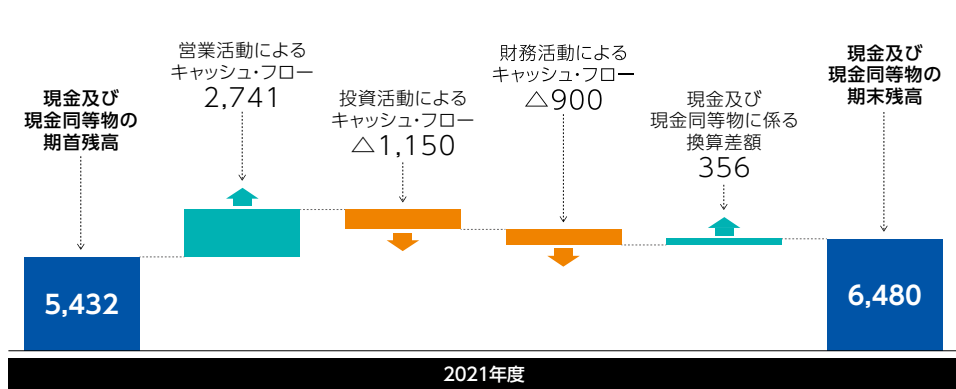
当期末の負債は、173億73百万円となり、前期末に比べ8億20百万円増加いたしました。これは、長期借入金が減少したものの、短期借入金や支払手形及び買掛金、前受金が増加したことなどによるものです。

①純資産のポイント

当期末の純資産は、231億67百万円となり、前期末に比べ20億40百万円増加いたしました。これは、利益剰余金や為替換算調整勘定が増加したことなどによるものです。この結果、自己資本比率は54.8%と前期末に比べ1.5ポイント増加いたしました。

◆連結キャッシュ・フロー計算書(単位:百万円)

(2021年4月1日～2022年3月31日)



①連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

当期末の現金及び現金同等物の残高は、64億80百万円となり、当期首残高に比べ10億47百万円増加いたしました。これは、投資活動によって11億50百万円、財務活動によって9億円を使用したものの、営業活動によって27億41百万円を得たためであります。

株式の状況 (2022年3月31日現在)

◆株式の状況

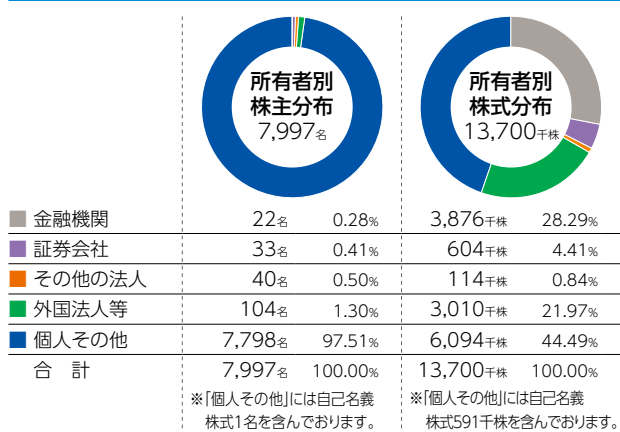
発行可能株式総数	36,000,000株
発行済株式の総数	13,700,000株
株主数	7,997名

◆大株主の状況

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,545	11.79
澄田誠	475	3.63
Castlewilder Unlimited Company	456	3.48
株式会社みずほ銀行	420	3.20
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	413	3.15
株式会社三井住友銀行	320	2.44
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	316	2.42
イノテック社員持株会	283	2.16
第一生命保険株式会社	280	2.14
株式会社北陸銀行	265	2.02

持株比率は自己株式591千株を控除して計算しております。

◆所有者別株主分布・所有者別株式分布



※本報告書の記載金額および数量は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。また、比率は表示単位未満の端数を四捨五入して表示しております。

会社概要 (2022年3月31日現在)

◆会社概要

商号	イノテック株式会社 INNOTECH CORPORATION
設立	1987年1月5日
資本金	105億17百万円
従業員数	連結 1,642人 個別 211人
所在地	本社／物流センター 横浜市港北区新横浜三丁目17番6号
主なグループ企業	三栄ハイテックス株式会社 ガイオ・テクノロジー株式会社 アイティアクセス株式会社 株式会社レグラス 株式会社モーデック STAR Technologies, Inc. INNOTECH FRONTIER, Inc.
主な取引銀行	株式会社みずほ銀行 株式会社三井住友銀行 株式会社北陸銀行 三井住友信託銀行株式会社 株式会社横浜銀行 株式会社三菱UFJ銀行

◆役員

(2022年3月31日現在)

取締役会長	小野 敏彦	取締役	中江 公人
代表取締役社長	大塚 信行	取締役	廣瀬 史乃
代表取締役専務	棚橋 祥紀	常勤監査役	加藤 功
常務取締役	鍋木 祥介	常勤監査役	中越 健介
常務取締役	高橋 尚	監査役	田中 伸男
取締役	劉 俊良	監査役	栗崎 由子
取締役	安生 一郎		

※1 安生一郎、中江公人および廣瀬史乃は、社外取締役であります。

※2 加藤功、田中伸男および栗崎由子は、社外監査役であります。

※3 安生一郎、中江公人、廣瀬史乃、加藤功、田中伸男および栗崎由子は、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

◆株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日
	期末配当 毎年3月31日
	中間配当 毎年9月30日
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して 定めた日
単元株式数	100株
【株式に関する住所変更などのお届出およびご照会について】	
証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。 証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の電話照会先までご連絡ください。	
株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
	〒168-0063
郵便物送付先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-782-031
インターネット ホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
【特別口座について】	
株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてののご照会およびご住所変更などのお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。	
公告方法	当社のホームページに掲載する。ただし当社ホームページにて公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。 https://www.innotech.co.jp/
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場

IRサイトのご案内

<https://www.innotech.co.jp/ir/>

イノテックは、株主の皆様とのコミュニケーションの一環として、IRサイトを開設しています。このサイトでは、業績・財務データや経営ビジョン・方針などを報告するとともに、「個人投資家の皆様へ」と題したコーナーを設け、当社のビジネスを分かりやすく説明しています。ぜひ、アクセスいただくとともに、ご意見・ご感想などをお寄せいただければ幸いです。



イノテック公式キャラクター
イノ吉



本社：〒222-8580 横浜市港北区新横浜三丁目17番6号
Tel: 045-474-9000 (代) Fax: 045-474-9089
<https://www.innotech.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています

